

## 15. 覆髄

### <到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従うことができる
- ・ ステップ毎に報告できる
- ・ 必要器材を的確に準備できる
- ・ 局所麻酔のための準備ができる
- ・ ラバーダム防湿を行える
- ・ 一連のバキューム操作を的確に行える
- ・ 覆髄剤塗布中のアシストがスムーズに行える
- ・ 覆髄剤・裏装材を正しく扱える

### <設定場面>

患者は20代男性。左下6のう蝕処置を進めているが、デンタルX写真上で歯髄がう窩に近接していることが判明している。そのため、覆髄法を行ってから修復処置を施すことになった。

### <治療手順>

1. 歯口清掃 必要器材：歯面清掃用セット（スケーラー、デンタルフロスなど）

歯科医師：患者にこれから行う処置についての説明を指示する。

衛生士：これから行う処置について説明し、患者の承諾を得る。

衛生士：歯口清掃を行った後、麻酔の準備を行う。

2. 麻酔 必要器材：患歯のエックス線フィルム、麻酔セット  
歯科医師：麻酔を行う。

3. ラバーダム防湿 必要器材：ラバーダムセット  
衛生士：ラバーダム防湿を行う。

4. 窩洞の概形形成とう窩の開拓 必要器材：タービン、コントラ、タービ

ン用バー、コントラ用バー

歯科医師：麻酔の奏功を待って高速切削により窩洞の概形形成を行い、う窩を開拡する。

衛生士：バキューム操作を行う。

5. 軟化象牙質の除去 必要器材：う蝕検知液、ネオクリーナー、生理食塩水、ミニウムシリンジ

歯科医師：う蝕検知液を窩洞に滴下・水洗して、軟化象牙質の取り残しを確認する。

衛生士：バキューム操作を行う。

歯科医師：残った軟化象牙質をコントラ用ラウンドバーで除去する。

衛生士：エアードライで切削粉塵を吹掃し、バキューム操作を行い削片を吸引する。

歯科医師：窩洞をネオクリーナー・生理食塩水で洗浄する。

衛生士：バキューム操作をする。

6. 覆髄

A. 間接覆髄法 必要器材：練和紙、スパチュラ、裏装用グラスアイオノマー系ベースセメント、裏装充填器

歯科医師：窩洞を軽く乾燥する。

衛生士：その間に覆髄剤を練和し、患者の下顎角近くに差し出す。左手にはアルコールワッテを固く絞って、探針を綿花の中で受け取る。

歯科医師：窩洞を覆髄剤で覆う。

衛生士：覆髄剤の硬化を待って裏装材（裏装用グラスアイオノマーセメント）を練和し、覆髄剤で行ったことと同様の操作をする。

歯科医師：窩洞の裏装を行う。

B. 直接覆髄法 必要器材：水酸化カルシウム系覆髄剤、覆髄充填器、裏装材、練和紙、スパチュラ、裏装充填器、コントラ、コントラ用バー

歯科医師：露髄面を洗淨・吸湿乾燥する。

歯科医師：直接覆髄剤（水酸化カルシウム製剤）の露髄面への塗布を行う。

衛生士：裏装材を練和する。

歯科医師：裏装を行い裏装充填器で窩洞を修正し、硬化を待ってからバーにて窩底含めた窩洞を整える。

衛生士：低速切削の補助を行う。

7. 片付け ※通常は覆髄に続いて修復処置（CR充填・鑄造歯冠修復など）が行われる。

歯科医師：本日の診療終了を指示する。

衛生士：診療後の注意事項を患者に説明し、退出を促す。

助手：診療後の後片付けを行う。

## 15. 覆髄

### 必要器材

- ①歯面清掃用セット（スクレーパー、デンタルフロスなど） ②患歯のエックス線フィルム ③麻酔セット ④ラバーダムセット ⑤タービン ⑥コントラ  
⑦タービン用バー ⑧コントラ用バー ⑨う蝕検知液 ⑩ネオクリーナー ⑪生理食塩水 ⑫ミニウムシリンジ ⑬練和紙 ⑭スパチュラ ⑮裏装用ガラスアイオノマーセメント ⑯裏装充填器 ⑰水酸化カルシウム系覆髄剤 ⑱覆髄充填器 ⑲裏装材